



ມາຈາກແຄມຂອງ~メコン川のほとりから~ 第5号



サバイディー！現在、青年海外協力隊としてラオスで活動中の本校教諭のコウラです。

○●青年海外協力隊の「職種」を紹介！●○

青年海外協力隊には約200もの職種があり、私は数学教育という職種で派遣されています。ちょっと見にくいですが、2017年秋募集の職種一覧を見てみてください↓これってどんなことやるんだろう？と思った人は、ぜひJICAのHPで内容を見てみてくださいね。「途上国で求められていること」の一面がわかるかも？

計画・行政	農林水産	鉱工業	人的資源		保健医療
コミュニティ開発	食用作物・稲作栽培	鉱業	青少年活動	音楽	歯科衛生士
行政サービス	花き栽培	化学・応用化学	環境教育	美術	歯科技工士
防災・災害対策	野菜栽培	金属加工	エアロビクス	珠算	看護師
環境行政	果樹栽培	溶接	陸上競技	日本語教育	保健師
コンピュータ技術	バイオテクノロジー	工作機械	体操競技	理科教育	助産師
公共・公益事業	きのご栽培	冷凍機器・空調	新体操	数学教育	臨床検査技師
水質検査	病虫害対策	電気・電子機器	水泳	体育	診療放射線技師
上水道	土壌肥料	電気・電子設備	卓球	小学校教育	薬剤師
下水道	農業土木	建設機械	バドミントン	幼児教育	言語聴覚士
廃棄物処理	農業機械	船舶機関	バレーボール	電子工学	作業療法士
道路	家畜飼育	自動車整備	バスケットボール	社会学・文化人類学	理学療法士
地震	養蜂	繊維	ソフトボール	科学	医療機器
土木	獣医・衛生	木工	野球	生態調査	病院運営管理
都市計画	畜産・乳製品加工	食品加工	ハンドボール	植物学	栄養士
造園	林業・森林保全	陶磁器	サッカー	学芸員	公衆衛生
建築	養殖	皮革工芸	レスリング	デザイン	感染症・エイズ対策
電気通信		貴金属装身具製作	柔道	写真	食品衛生
放送技術・設備		包装	空手道	美容師	学校保健
音響		エネルギー	合気道	編集	社会福祉
照明		再生可能・省エネルギー	剣道	家政・生活改善	ソーシャル・カー
番組制作		商業・観光	ウエイトリフティング	手工芸	障害児・者支援
		経営管理	自転車競技	料理	福祉用具
		マーケティング	ラグビー	服飾	高齢者介護
		観光	PCインストラクター	紳士服	
				文化	

資格や経験が必要なものから、大学を卒業してすぐの人等が多く応募する職種まで、たくさんの種類があります！

~他国の協力隊アレコレ~

協力隊は派遣前に新しい言語を勉強した人ばかり。「語学上達のポイントは？」と聞いてみました！

間違いを恐れずにどんどん話す。分かったふりや理解することを諦めるのをやめて、とことん聞き直す。何度間違えても聞き直しても**相手はそんなに気にしてない!**(マラウイ・英語)

伝わるまで言い続ける。「はあっ?！」と言われてもくじけない(フィリピン・現地語キナライア語と英語)
現地の方と話す。少しでも話せると、**誉められてより頑張れる!**(エチオピア・アムハラ語)

話したい、伝えたいという目的、意欲(モンゴル・モンゴル語)

安心して話せる人を見つけて、とにかく話す。**言い回しを真似してみる**(東ティモール・テトゥン語)

自信がなくても、どんどんその言語で話してみる!(ガーナ・現地語 Twi 語と英語)

ひたすら外に出て話す! 知らない単語も使っている様子から意味が分かるなど勉強になる!

(ウガンダ共和国・ルガンダ語と英語)

●○ 新しい言語を勉強する。ラオ語を知って、私が感じたこと ○●

私は学生時代、英語があまり得意ではなく特に話すことは苦手でした。協力隊に応募する際も、英語の点数が足りないため英語圏への応募は考えられず、“もっと英語ができれば選択肢がもっと広がったのかな”と思ったことも覚えています。ですが今は、非英語（特にマイナー言語であるラオ語）を勉強できてすごく良かったと思っています。“日本には四季があり、雨の言い表し方もたくさんあるなど表現が豊か”であるとはよく言われていますが、言語を知ることで、その国・地域・人の文化や習慣がわかるのだと感じます。そしてラオスに住み、その国の文化・習慣・大切にしていることがわかって初めてその言い回しや単語の意味が本当にわかる気がしています。

訓練所の先生は日本語もある程度できますが、「日本語にはない単語の感覚」や接続詞は、英語で説明してもらおうとよくわかるときがあり、英語も一つのツール(道具)なのだと感じました。ラオ語を知ったことで、前回紹介した声調などの日本語にも英語にもない言語へのアプローチの方法が増えたので、旅行のためにベトナム語を勉強したときにすごく面白いなと感じられたことも嬉しかったことの1つです。

学生の間って、どうしても試験のために外国語を勉強する、となってしまうがちです。私もそうであったし、仕方ないとも思います。でも、本当はそうじゃない。その言語を話したり使ったりしてはじめて、その言語の“姿”が見えるのだと思います。

= インタビューコーナー =

今回は JICA ラオス事務所で働く職員さんの奥様・中原さんにお話を聞きました。

4歳の息子さんと3人でラオスにお住まいになり1年9か月目とのことですよ！

Q. これまでの経歴とラオスで生活することになった経緯を教えてください。

日本では通信会社で働いていました。息子出産後の育児休職中にスリランカで2年間、その後、夫のラオス赴任を機に退職し、ラオスにきました。

Q. ラオスではどのような生活を送られていますか。

友人と習い事やボランティア活動に参加したり、市場や商店をハシゴしながら買い物して食事を作ったりしています。

Q. 日本国外で子育てをされて、

良かったと感じることがあれば教えてください。

子供に対して優しく寛容な国なのでのびのび育てられること、様々な国籍の子供と触れ合う機会が多いことなど、良いと思います。

Q. 将来、中原さんのように海外で生活することになるかもしれない

中高生にメッセージをお願いします！

海外生活では不便もありますが良い面も多くあります。

将来もし機会があれば、日本との違いをぜひ楽しんでみてください！



↑リハビリセンターでの
ボランティア活動。
一緒に折り紙をしています。

これって何？どこ？と思ったら、ぜひ調べてみてください。次号へつづく！